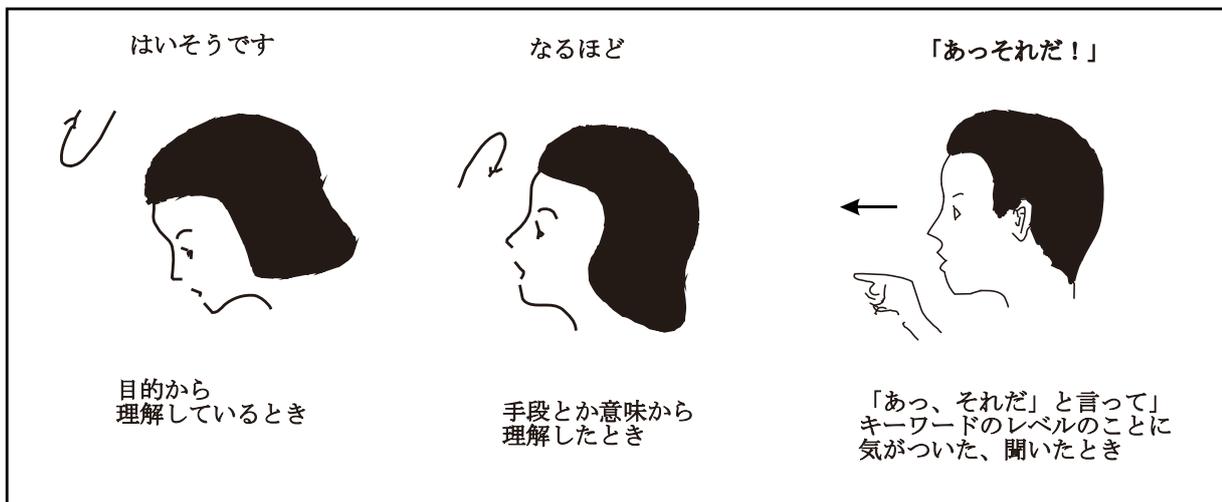


1. ものが分かったときや同意をしたときに、私たちは首（頭）を縦に振ります。

どちらへ先に振り出すのでしょうか？

下図を見てください。



ものごとが、解ったときに首（頭）を最初に振る方向の図を示す図です。

- ・はいそうです。
- ・なるほど
- ・あっそれだと、キーワードを発見したときや、人からそれを聞いて首（頭）を振り始める方法が、それぞれ違うのです。

- ・「はいそうです」というときは、上から下へ、次に下から上へ振り始めます。
- ・「なるほど」というときは、下から上へ、次に上から下へ振り始めます。
- ・「あっそれだ！」と、キーワードを発見したときは首を振らずに「えっ」といった感じで首を少し前に動かすか、その内容を発した人のこえの方向へ少し動かします。あなたが成人した男性である場合、彼女に耳もとに初めて「好き」と言ってごらんください。たいていの時は、彼女の首がもう少しそれを聞こうとしてこちらに、ほんの少し近づいてくることを感じるはずです。貴女が女性である場合には、同じようなことを感じるはずです。

以上の現象を、思考と行動は、わたしたちの頭ないしは体の中のある情報の、時間・空間配置から出されてくるというメカニズムを裏付ける現象と思われます。

これで、人と人とのコミュにケーションができるようになります。

こちらが、上記に、説明したような動作と言葉を発すれば、相手もそれに応じた動作と思考の受け入れをして、それを頭ないしは身体の中にしまい込み、記憶をしています。

この説明は筆者著書の「新プロジェクト管理の方法」(1997)の本の P59 と P119 に示されています。
当該書籍は下記 URL よりダウンロードできます。

<http://dtn-wisdom.jp/00001-0-shin-projekuto-kannri.pdf>

また、2013 に出版された「問題解決と課題実現のための知識から知恵を創り出す方法」(ウイズダムマネジメントを拓く) <http://dtn-wisdom.jp/0-mondai-kadai-chishiki-chie.pdf> の P59 にも同じこととそれに関連した新しい発見も P119~113 その他にも載っています。特に、マネジメントに興味のある方は、P151~230 をご覧いただければ、今までにない思考とマネジメントの新しい世界が開けることとなります。

これらのことの 2002 現在の英文図書および、関連図書は下記で公表しています。

<http://dtn-wisdom.jp/Advanced-project-management-methodology.pdf>

<http://dtn-wisdom.jp/0-DTCN-DTC.pdf>

2. このメカニズムをどう「問題解決と課題実現のための知識から知恵を創り出す方法」(ウイズダムマネジメント)に、応用して行くのか?

「問題解決と課題実現のための知識から知恵を創り出す方法」(ウイズダムマネジメントを拓く)

<http://dtn-wisdom.jp/0-mondai-kadai-chishiki-chie.pdf> で WEB 上、無料公開をしています。

以下この本の内容がどう、何に役立つかを説明しておきます。

3. この本の内容の要点を、一つの例をとって、要約しますと、下記のようになります。
この成果は、これからの世の中の進展に大きく貢献することと思っています。

問題・課題・問題解決・課題実現の融合ができるようになります。

この方法を **DTCN の方法** と呼びます。 **DTCN の方法は上記の本に詳しく書いてあります。**

従来、問題、課題、問題解決、課題実現、課題解決という言葉の意味、その内容が相当混乱していました。

以下その 関係を整理し、新しい説明をします。

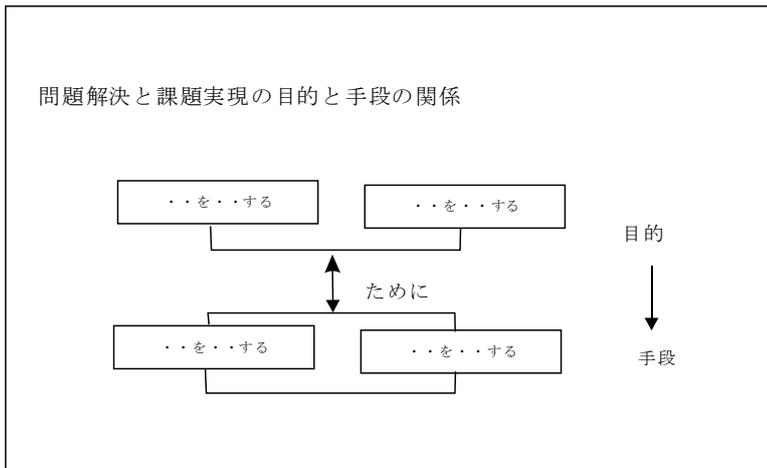
問題がある ということは、まずい状態、悪い状態にあることをいいます。

これに対してよい状態があります。この状態より、よい状態にすることを **問題を解決する** といいます。

一方、課題がある ということは、これから創り出す良い状態 (=希望の状態) のことをいいます。

課題を実現する ということはこれから創り出すよい状態を実現することです。

この二つの関係を、目的と手段ダイアグラム（PMD）の空間配置図にしてみますと下記のようになりません。目的と手段ダイアグラム（PMD）は、知識から知恵を創り出す方法の P48～64 を見てください。



この図から、見ると問題解決も、課題実現も同じ目的ということになります。

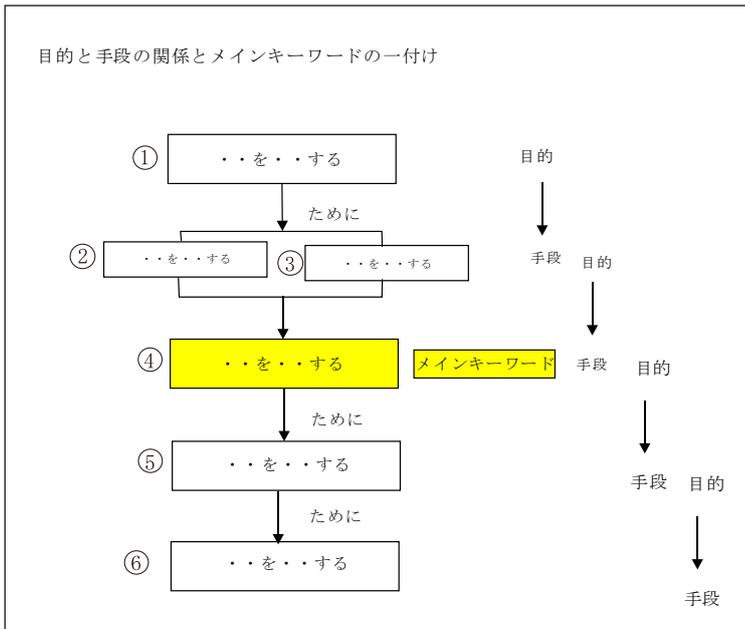
ということは、問題解決も課題実現も同じことを実現する（＝よい状態にする）ための、事前段階の作業、ないしは思考活動を指していたことになります。

一方、**問題解決をする**ということは、現状（問題ある状態：悪い状態）から、そのよい状態、即ち、**あるべき姿の状態**にすること（作業）、即ち、現状とあるべき姿の間にあるギャップを埋めることと言われてきました。

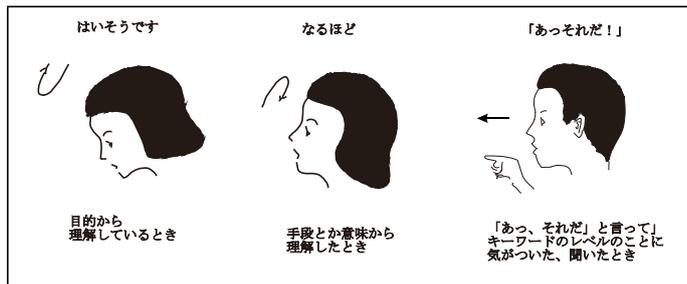
問題実現をするということは、問題があろうが、問題がないであろうが、現状から、これからの良い状態（＝希望の状態）を創り出す作業（＝実現する作業）のことを指しています。

ということは、**問題実現をする**ということは、問題があろうが、問題がないであろうが、現状から、これからの良い状態（＝希望の状態）**あるべき姿の状態**を創り出す作業（＝実現する作業）のことを指しています。

従って、問題解決の作業も、課題実現の作業も、**あるべき姿の実現をする**作業に焦点を合わせれば良いので、問題解決であろうが、課題実現であろうが、同じ質問、即ち「それで何をしようとしているのか？」
「それでなにをしさえすればよいのか？」の答えを「考えつくだけカードに書きだし」そのカードを目的と手段の関係の配置で、整理をすれば、その焦点（メインキーワード）を絞りこむことができます。



この焦点を絞りこむ、要領は、不思議な話ですが、下図を参照して説明すれば、なるほどということがわかるようになります。



左図は
 ものがとが、解ったときに首を最初に振る方向の図
 を示す図です。
 この説明は筆者著書の「新プロジェクト管理の方法」
 の本の P59 と P119 に示されています。
 当該書籍は下記 URL よりダウンロードできます。

<http://dten-wisdom.jp/00001-0-shin-proiekuto-kannri.pdf>

(注：この頭の振り方の例外は、インドとパキスタンの地方の一部に例外がある模様です)

メインキーワードの位置づけは頭を「はいそうです」と「なるほど」と言ってフル方向の中間配置の「あつつそれだ！」というレベルのところ、よい状態、即ち、**あるべき姿の状態**の把握がでいるようになります。

さて次の、**あるべき姿を実現する手順**を創りだす方法が問題解決、課題実現が次の対処すべき課題となります。

DTCN の方法の中の**ステップリストの方法**がその方法です。

また**ステップリストの方法**で実現できる姿を必要に応じて、最適化をするためには、トレードスタディーと、FBS の方法を合わせて実施します。

トレードスタディーの方法と FBS の方法はそれぞれ、知識から知恵を創り出す方法の P83～104 に記述してあります。

知識から知恵を創り出す方法 (=DTCN の方法) は下記よりダウンロードできます。

<http://dtn-wisdom.jp/0-mondai-kadai-chishiki-chie.pdf>

(注意事項)

課題解決をするとは、問題解決と課題実現の中間的な表現のように思えます。

ところが、問題解決・課題実現を英語で言いますと、Problem solving、Task Realization、といい、ますが、課題解決を、英語にすると、Task solving となります。

このような英語はありません。課題解決という言葉は NHK でさえも、2016 年 5 月現在でも誤用しています。いずれ直されることと思っています。